

2016 年度 センター試験 倫理、政治・経済（本試験） ワンポイント解説

第1問	<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第1問と同一で、設問は「倫理」第1問からの抜粋。</p> <p>問1 倫理 01 と同一。パーソナリティには遺伝的な要素以外にも影響を与える。</p> <p>問2 倫理 03 と同一。①は代償、②は合理化、③は抑圧。</p> <p>問3 倫理 04 と同一。リーアムとネーゲルの共著『税と正義』からの引用による出題であるが、この二人や著書についての事前知識は必要ではなく、純粋な読み取り問題である。ただし、読み取りには相応の時間がかかる。</p> <p>問4 倫理 05 と同一。見開き2頁にわたる資料読み取り問題で、選択肢がいずれも5行にわたっているため、手間のかかる設問である。</p> <p>問5 倫理 09 と同一。コミュニタリアニズム(共同体主義)という言葉になじみがなくても、文脈から正解を導くことは難しくない。</p>
第2問	<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第3問と同一で、設問は「倫理」第2問および第3問からの抜粋。</p> <p>問1 倫理 21 と同一。和辻哲郎は日本の神を祀る神・祀って祀られる神などに4分類している。この点を知らない場合には、消去法でのアプローチとなる。①は大日本帝国憲法、②は柳田国男、③は折口信夫。</p> <p>問2 倫理 14 と同一。①の「無自性」とはすべて存在するものには固定的実体がないという考え。②の「四苦」とは生・老・病・死。③の「三帰」とは仏・法・僧への帰依。</p> <p>問3 倫理 23 と同一。他力本願の法然と絶対他力の親鸞。この点を想起すれば正解を導くことができる。</p> <p>問4 倫理 24 と同一。室鳩巢の『駿台雑和』からの引用による出題であるが、この著者・著書についての事前知識は必要ではなく、純粋な読み取り問題である。ただし、現代文ではないため読み取るには相応の時間は必要となる。「捨つるとならば、第一に身の楽を思ふ心を捨て」・「名教中に自然の楽地あるべし」に注目して考えてみよう。</p> <p>問5 倫理 11 と同一。極めて基本的な出題。仁とは愛であり、自分を欺かないことが忠。真人は荘子。</p> <p>問6 倫理 26 と同一。「新しき村」は武者小路実篤らが宮崎県に築いた理想郷。この点に気づかなければ、消去法でのアプローチとなるが、やや難しい。①『三太郎の日記』を著したのは阿部次郎。②「墮ちきる」ことを説いたのは坂口安吾の『墮落論』。③ 小林秀雄は『様々なる意匠』によって近代批評を確立。</p> <p>問7 倫理 28 と同一。本文との内容合致問題。リード文を落ち着いて読み解く必要があるため、相応の時間がかかると予想される。こういう設問は最後に解くという方法もある。</p>

第3問		<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第4問と同一で、設問は「倫理」第2問および第4問からの抜粋。</p> <p>問1 倫理17と同一。②イエスは律法主義を批判。③「敵を愛せよ」と説いたのはイエス。④イエスは安息日を形式的に遵守する態度を批判。</p> <p>問2 倫理29と同一。単純な知識問題。『カンツォニエーレ』はペトラルカの著書。</p> <p>問3 倫理32と同一。コペルニクスの転回を想起すれば正文は明瞭。</p> <p>問4 倫理33と同一。アは「存在するとは知覚されることである」という引用、イは「心」は「白紙」、ウは「習慣的な連想や想像力」に注目して判断。ただし、ヒュームについての詳細な知識がない場合には、ベーコンとの比較に頼ることになる。</p> <p>問5 倫理36と同一。イの「即自存在」・「対自存在」はサルトル。</p> <p>問6 倫理18と同一。荘子の万物斉同や逍遙遊を正しく説明している④が正解。</p> <p>問7 倫理37と同一。本文との内容合致問題。リード文を落ち着いて読み解く必要があるため、相応の時間がかかると予想される。知識系の設問は覚えれば確実に得点力が向上するが、内容合致問題は現代文と同様の読解力が不可欠となるため、日頃から意識して訓練しておかないと急には対処できない。</p>
-----	--	--

<p>第4問</p> <p>問1</p> <p>問2</p> <p>問3</p> <p>問4</p> <p>問5</p> <p>問6</p> <p>問7</p> <p>問8</p>		<p>政経分野・リード文は「政経」の第1問と同一で、設問は「政経」第1問からの抜粋。</p> <p>政経01と同一。単純な知識問題。『国家論』の著者は近代的な主権論を確立したボーダン。</p> <p>政経02と同一。加盟国数やGDPに注目すれば解答を導くことが可能。</p> <p>政経03と同一。正解の②は為替政策。公開市場操作・金利政策・準備率操作の基本がわかれば消去法でも正解可能。金融緩和は、買いオペレーション・政策金利と準備率の引き下げによって行われるのが基本であるが、現在は買いオペが中心であり、これを通じて量的・質的緩和を実施している。</p> <p>政経04と同一。Aはグラフから一目瞭然。Iは経常赤字であれば、外国からの投資を受け入れて補填していると推察できるため、対外債務は増加すると判断可能。</p> <p>政経05と同一。平易な基本問題。Aの「干渉しない」、Bの「求める」、Cの「参画」が判断ポイント。</p> <p>政経07と同一。各選択肢の「3分の2」に注目して判断していけばよい。憲法の第58・61・96条の各条文を確認しておきたい。②は憲法改正国民投票法に規定されており、有効投票の過半数である。</p> <p>政経08と同一。地方自治に関する基本問題。</p> <p>政経09と同一。日本道路公団の民営化や国家戦略特区は構造改革後の2000年代以降。郵政民営化は郵政三事業すべてが対象。そのうち、郵貯と簡保は2015年に東京証券取引所に上場された。</p>
<p>第5問</p> <p>問1</p> <p>問2</p> <p>問3</p> <p>問4</p> <p>問5</p>		<p>政経分野・リード文は「政経」の第3問と同一で、設問は「政経」第3問からの抜粋。</p> <p>政経19と同一。Aは直後の「それぞれの民族のもつ言語や価値観などを尊重」で、Iは同様に「少数派の独立」で判断可能。</p> <p>政経21と同一。Aはアルバニア、Iはロシア、Uはインティファダというキーワードで判断。</p> <p>政経22と同一。難民とは政治的迫害から逃れるために国外に逃れた人々であるという基本がわかれば判断可能。正解となった④はノン・ルフールマン原則と呼ばれるものである。</p> <p>政経23と同一。不法就労者でも基本的人権は否定されない。</p> <p>政経26と同一。なじみのないメディア=スクラムという言葉があるが、メディア=リテラシーという言葉を知っていれば問題なく正解を導くことができる。なお、メディア=スクラムとは、マスメディアの取材が殺到する状況を示す言葉である。</p>

第6問		<p>政経分野・リード文は「政経」の第4問と同一で、設問は「政経」第4問からの抜粋。</p> <p>問1 政経28と同一。市場機構の基本問題。設問のリード文にある「原材料の価格が低下した」に注目すれば良い。</p> <p>問2 政経29と同一。社会保障の歴史に関する基本問題。アは「大恐慌を契機」、イは「ナショナル・ミニマム」、ウは「公的扶助の先駆け」で判別可能。</p> <p>問3 政経30と同一。非競争性とは他の経済主体と競争しない、すなわち皆が同時に使えると判断できる。</p> <p>問4 政経32と同一。誤りの選択肢については、詳細な知識がなくとも常識的に判断可能。</p> <p>問5 政経34と同一。設問のリード文にある「扶助費は生活保護や高齢者福祉」に注目してAと判断するのは難しくない。BとCはいずれも低下傾向であるが、人件費は固定的なのに対して、普通建設事業費は裁量的な増減が可能であると考えれば正解に到達できる。</p>
-----	--	--